

長岡京市社会福祉協議会 第3次地域福祉活動計画

【令和2年度及び 計画期間終了にかか るアクションプラン 評価表】

基本目標

1 みんなで支えあい・助けあえる地域づくり

(1) 「お互いさま」の関係づくりの推進

アクションプラン	地域住民が集う場と、場へ参加する人を増やします。
----------	--------------------------

事業内容	市民啓発講座 自分サポーター養成講座 出張講座 脳はつらつ教室 総合相談 健康フェスタ・未来場者訪問 など
担当事業・係	地域包括支援センター（基幹強化担当・校区担当）
令和2年度の取り組み状況	<p>（市民啓発講座）</p> <p>閉じこもりがちな高齢期の社会参加を促進するため「人と交流したくなる」「他者との関わりの中から自分の生活を見直す」をテーマに講演会を開催（オンラインも併用）。新型コロナウイルス感染症の影響で人との交流がしづらい中だからこそ、他者との交流への関心が高いことがわかりました。</p> <p>（総合相談）</p> <p>コロナ禍で、集いの場の休止等もありましたが、自宅で個々での介護予防の取り組み等を提案しました。</p> <p>（出張講座・健康フェスタ）</p> <p>コロナ禍で地域活動を支援する出張講座は3回と減少、健康フェスタも開催されず、3地区で郵送にて健康状態や不安や困りごとを聞き取り、必要に応じて個別訪問を行いました。</p>
計画期間前後のセールスポイント （市民の姿がどう変わったか、自慢できる点）	<p>（市民啓発講座）</p> <p>高齢期の生活とはどのようなことを考えていく必要があるのかといった点から、終末期の医療から家の中の片付けまで、様々なテーマで講座を開催しました。受講を通じて、高齢期の生活を支える様々な機関について知っていただくことができました。また、自身の住まわれている地域を受け持つ地域包括支援センターの認知度が高まり、身近な相談窓口として繋がる市民が増えました。</p> <p>（総合相談）</p> <p>「運動の機会を持ちたい」「定期的に出掛ける場所を作りたい」といった前向きな気持ちになれば、サービス利用の開始や介護予防サロン・教室等に参加する人が増えました。閉じこもり防止や介護予防につながっています。</p> <p>期間後半はコロナ禍で、地域での集まる場は休止が多くありましたが、介護保険通所サービスへ移行や、個々での取り組み継続にて再開に備える等、参加意欲や介護予防の意識は持ち続けていただけました。</p> <p>（出張講座・健康フェスタ）</p> <p>主催者と相談し、情勢にあわせた内容、より興味のある内容で実施することで、参加者が増加しました。</p>

事業内容	老人福祉活動等支援事業・子育て支援事業
担当事業・係	管理事業
令和2年度の取り組み状況	<p>60歳以上の高齢者に向けては一般利用（入浴や健康機器）をはじめ、サークル活動のための部屋貸し、介護予防や生きがいづくりを目的とした講座などを実施しています。</p> <p>子育て世代向けには、週2回の和室開放、定期的に親子で参加できる講座を開催して、交流できる場所を提供しています。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で臨時休館期間がありましたが、開館の際は感染予防に努め、可能な範囲で事業を継続しました。障がい者施設の製品販売や、恒例のゆず湯以外の季節の湯を実施して、制限がある中でもできる新たな取り組みを行いました。</p> <p>「いきいき教室」については、今後実施したい内容などについて一般利用者の意見をアンケートにより聞き取りました。</p>
計画期間前後のセールスポイント (市民の姿がどう変わったか、自慢できる点)	<p>申し込み不要で気軽に参加できる体操教室を開催することで、新たにきりしま苑に来られる方が増えました。</p> <p>きりしま苑は高齢者の利用する施設であるというイメージを持つ人が多かったようですが、子育て世代や子ども向けの教室を開催することで年齢を問わず集える場所であるとの認識が徐々に広まってきたように思います。</p> <p>また、子育て支援団体と協働で高齢者との多世代交流の機会にもなるイベントを行い、きりしま苑が交流の場として活用されるようになりました。</p>

【5年間の計画】

平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
集いの場に関する地域の実情の把握、課題の抽出	地域住民による集いの場づくりの推進	地域住民による集いの場づくりの推進、参加への働きかけの強化	見直し	評価

基本目標

1 みんなで支えあい・助けあえる地域づくり

(2) サロン活動、市民活動等の支援

アクションプラン	地域コミュニティ活性化に向けた活動人口を増やします。
----------	----------------------------

事業内容	ふれあいのまちづくり事業、ふれあい・いきいきサロン活動支援事業
担当事業・係	地域福祉係
令和2年度の取り組み状況	<p>例年実施しているふれあいのまちづくり事業の交流会は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。</p> <p>ふれあい・いきいきサロン活動支援事業においても集合開催が難しい中、サロン主催者に対して、活動の継続に対する相談やこれからの活動に対する不安に対して聞き取りながら、できることを探す支援を行いました。</p>
計画期間前後のセー ルスポイント (市民の姿がどう変 わったか、自慢でき る点)	<p>コロナ禍前は、集いの場づくりを中心に活動人口を増やしながら住みよい安心できる地域づくりを行うことで、新たな担い手も徐々に増えてきていました。コロナ禍以降は、集わなくてもできる繋がりづくりとして、布マスクチャレンジやおうちで繋がろう体操チャレンジ等、会わなくてもできることを模索しながら、地域コミュニティを絶やさない取り組みを考え取り組んでくださっています。</p>

【5年間の計画】

平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
「ふれあいまちづくり事業」「ふれあい・いきいきサロン」関係者の交流会等の実施	担い手を増やすための勉強会等の取り組みの実施	担い手を増やす取り組みの見直し	担い手を増やすための勉強会等の取り組みの実施	評価

基本目標

1 みんなで支えあい・助けあえる地域づくり

(2) サロン活動、市民活動等の支援

アクションプラン	市民の継続的な活動を支援します。
----------	------------------

事業内容	地域福祉活動
担当事業・係	地域福祉係
令和2年度の取り組み状況	長引く新型コロナウイルス感染症の影響で、生活困窮者の食のニーズが増加しました。フードバンク長岡京と連携し、月1回の実行委員会に参加するとともに食を必要とされる方へのマッチングを行いました。
計画期間前後のセー ルスポイント (市民の姿がどう変 わったか、自慢でき る点)	フードバンク長岡京が設立して5年が経ち、各家庭からの食品ロスを集めるフードドライブ活動が定着してきました。また、フードドライブを行う場所、フードステーションも年々増えています。これからの活動内容の拡充も視野に入れ、冷凍庫を購入し新たな食材の受け入れ準備を行っています。

事業内容	地域コミュニケーションプロジェクト
担当事業・係	法人組織強化・地域福祉係・東地域包括支援事業等
令和2年度の取り組み状況	次の3つの事業を展開しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・みんなのポケット（詳細は後述） ・60（ロクマル）カフェ 6回開催（87名）が参加 ・ダーツで地域づくり 定期的なミーティングを実施。ダーツ大会については、コロナ禍での開催に懸念があったため中止
計画期間前後のセー ルスポイント (市民の姿がどう変 わったか、自慢でき る点)	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなのポケット（詳細は後述） ・60カフェ きりしま苑を利用されている方々がサポーターとなり運営していくくみで実施。サポーターや参加者の増加と定着が見られ、活発な雰囲気運営できていたところ、コロナ禍で一時中止となりました。再開後は衛生管理を行いつつできることを模索しています。コロナ禍にあっても、どのように活動できるかなど、関係者で協議して決めていくプロセスができるようになりました。 ・ダーツで地域づくり サロン等の活動にもダーツを取り入れることで、男性が足を運びやすくなったという報告もあり、この5年間でダーツに取り組んでおられる市民の数は増加しました。競技チームも増え社協会長杯のウエルネスダーツ大会を開催できるまでに発展しました。年に一度の大会を開催することで、各地域での取り組み意欲が高まり、ダーツを楽しまれ

	<p>る方が増えています。新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度大会は中止となりましたが、次年度の開催については市民で組織された実行委員会を中心に建設的な話し合いが行われています。</p>
--	--

事業内容	地域コミュニケーションプロジェクト（みんなのポケット）
担当事業・係	法人組織強化・地域福祉係
令和2年度の取り組み状況	<p>長岡第九小学校の子どもたちを対象に「大人と子どもが育てあい・育ちあう場」をテーマに、実行委員が主体となる事業をきりしま苑2階で展開しました。</p> <p>計画期間後半はコロナ禍で開催が難しくなった中、定員を60名から15名に削減することを実行委員会で決め、サポーター（中学、高校、大学の学生サポーター、大人サポーター）やみんなのポケット参加意思のある保護者への説明会を行う等、コロナ禍でのみんなのポケットの活動内容が変更したことを伝える機会を作りました（実行委員会の開催、みんなのポケット予行練習の実施、みんなのポケットの開催（2回）、学生サポーター説明会の実施、サポーター説明会の実施、参加児童保護者への説明会の実施）。</p> <p>調理サポーターの活動はできない状況でしたが、実施することを目的とするのではなく、人数制限・衛生管理が徹底できる規模を設定し、持続可能な活動にするために、具体的なプランを示すことができました。</p> <p>また、ホームページの作成等情報の発信について考える機会が多くなり、ホームページの開設にむけ活動を行っています。</p>
計画期間前後のセールスポイント （市民の姿がどう変わったか、自慢できる点）	<p>立ち上げから年々、参加者とサポーターが増えている状況でしたが、コロナ禍により人数制限をつけて実施することとなりました。しかしながら5年間を通してみると、学生サポーターも中学生から大学生まで幅広い世代で構成され、みんなのポケットのテーマである、育て合い・育ち合う場を意識した活動が浸透してきています。同時に、共感でつながる実行委員会、サポーターの関係ができ、みんなのポケットを応援する方々も増えています。</p> <p>財源についてもテーマ型募金を採用するようになり、実行委員自らが自分たちの活動を紹介し、人・財源の協力を呼びかけるしくみができました。</p> <p>今後の活動内容については、「食べる」ことを大きな柱の一つとして展開してきましたが、コロナ禍でも活動を安全に実施するために、「体験・経験する」を中心に実施しています。時間も短縮する中で、できることの模索を続けていきます。</p>

事業内容	<p>地域お助けサポーター養成講座 認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座 60カフェ 馬場サロン さくらカフェ 開田サロン など</p>
担当事業・係	地域包括支援センター（基幹強化担当・校区担当）
令和2年度の取り組み状況	<p>（地域お助けサポーター養成講座） 計2回開催し、15名の方が養成講座を修了されました。新型コロナウイルス感染症の影響により、施設でのサポーター活動がすべて実施できないという状況でしたが、個人宅でのゴミ出し支援や落ち葉掃きなど個別のケースでのマッチングを行いました。</p> <p>（認知症サポーター養成講座） オンラインを活用した講座開催やジョブパークなどの団体と協力し、求職者などの若年層への認知症啓発に特に力を入れて事業を実施しました。また、キャラバン・メイト、認知症サポーターを活動につなげるというテーマのもと、自分たちに何ができるかを考える「オレンジミーティング」を開催しました。</p> <p>（サロン等活動） 60カフェ、介護予防サロンの馬場サロン、開田サロンでは、ボランティアや地域の方が主体的に継続開催されています。</p> <p>自宅開放型サロンとしてさくらカフェ（月1回）、継続開催の支援を行っています。</p>
<p>計画期間前後のセー ルスポイント （市民の姿がどう変わったか、自慢できる点）</p>	<p>（地域お助けサポーター養成講座） 総合事業の新たな取り組みとして始まったサポーター制度ですが、すでにボランティア活動等を行っている方のみならず、初めて活動を行う方も多かったことから、新たな活動者の発掘や活動のきっかけになったと考えられます。また、日常のちょっとした困りごとを公的な制度だけではなく、地域住民同士で支え合う形が少しずつ生まれつつあります。</p> <p>（認知症サポーター養成講座） 定期的な開催や啓発により、認知症について学ぶ市民が増えました。また、認知症についてあまり身近でない世代への働きかけとして、小中学校、企業等と講座やイベントを開催し、認知症を知っている若年層が増加しました。</p> <p>（サロン等活動） 馬場地区、開田地区では健康フェスタ開催後に「定期的に集う場を持ちたい」との声があり、月2回の介護予防サロンの立ち上げに至りました。地区それぞれに応じた開催方法を協議し、地域の介護保険事業所の協力を得ながら、高齢者自身が運営をされるサロンとして継続できるまでになりました。</p> <p>さくらカフェでは、一人暮らしになられたタイミングで「自宅で人に集まって欲しい」との声から、月1回定例化し、主催者や参加者の特技</p>

	を生かした趣味活動等に取り組まれています。
--	-----------------------

事業内容	老人福祉活動等支援事業・子育て支援事業
担当事業・係	管理事業
令和2年度の取り組み状況	<p>市民活動団体に活動場所を提供していますが、活動時間や利用人数に制限を設けるなど、コロナ禍でも安心して活動していただけるように感染症対策等を徹底しました。</p> <p>また市民活動者と協働して講座やイベントを開催するなどの支援も引き続き行いました。</p>
計画期間前後のセールスポイント (市民の姿がどう変わったか、自慢できる点)	<p>市民活動者の主体性を重視し、講座後は受講者が SNS 等を通じて直接市民活動者と関われるようにしています。新たな活動者が増えることにつながっています。</p> <p>今後も市民活動の拠点として、組織内で連携を取りながら取り組みを進めていきます。</p>

【5年間の計画】

平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
講座の企画・実施、フォローアップ体制の確立	講座修了後のフォローアップ体制の充実	→	見直し	評価
地域住民の活動の場の把握 地域住民の活動の場づくり	→	地域住民の活動の場づくりの拡大	見直し	評価

基本目標

1 みんなで支えあい・助け合える地域づくり

(2) サロン活動、市民活動等の支援

アクションプラン	障がいのある人の社会活動の機会を増やします。
----------	------------------------

事業内容	ピアカウンセラー企画
担当事業・係	障がい者生活支援事業
令和2年度の取り組み状況	<p>昨年度に続き定期的な開催をする予定で部屋を確保し年間スケジュール(5月/7月/10月/1月/3月「カラオケ大会」。2月「お菓子づくり」)を立てていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を注視し全て中止しました。カラオケやお菓子づくり以外に3密対策をした企画ができないかと考えましたが、何らかの介助が必要な障がい者も多く人数制限を行っても密を避けることは難しいと判断しました。</p> <p>残念ながら企画は実施できませんでしたが、「キャンパス通信」を発行し「会えないけれど一人じゃないよ」というメッセージや、個々に楽しめそうな情報、過去のピアカン企画「お菓子づくり」で作ったお菓子のレシピを紹介するなど情報発信を行いました。お菓子のレシピは「家で作ってみようと思う」という声がありました。</p>
計画期間前後のセー ルスポイント (市民の姿がどう変 わったか、自慢でき る点)	<p>『ピアカンってなあに?』のタイトルで初年度にピアカン講座を開催。参加者は軽度の精神障がい者2名。公開講座としたため障がい者との関わりが浅い職員も一緒に「ピアカンの事」、「障がいの事」、「悩み」についてディスカッションを行い、障がい者、健常者を気にせず楽しく過ごしました。その後の講座開催は実施できていませんが、地域の小・中学校の福祉教育で障がいやピアカンについて話をする機会は何回もあり、車いすに対する思いやりに気づいてくれる子どもたちと出会うことができました。ピアカン企画は毎年「お菓子づくり」を開催し、定期的なカラオケ大会は4年間実施できました。</p> <p>計画期間後半は新型コロナウイルス感染症の影響で人が集う企画が実施できない中、個々の相談に「次の企画はいつするの?」と聞かれることも多く、ピアカン企画を楽しみにされている事を感じました。また、外出自粛や大勢で会えない時だからこそ「文字によるつながり」を大事に情報提供や、障がい者目線で日々の出来事を発信し、それに対して反応があることも増えてきました。</p>

【5年間の計画】※①から⑤のサイクルを繰り返す

平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
<p>〈上半期〉</p> <p>①通年して行えるプログラムの検討(複数)。ニーズ把握、講師選定。</p>	<p>〈上半期〉</p> <p>③複数講座お試し実施。振り返り。プログラム絞り込み。</p>	<p>〈上半期〉</p> <p>⑤講座実施。振り返り。ピアカン企画から講師等主催企画への移行を検討、実施。</p>	<p>〈上半期〉</p> <p>②複数講座お試し実施。振り返り。</p>	<p>〈上半期〉</p> <p>④講座実施（継続）。振り返り。</p>
<p>〈下半期〉</p> <p>②複数講座お試し実施。振り返り。</p>	<p>〈下半期〉</p> <p>④講座実施（継続）。振り返り。</p>	<p>〈下半期〉</p> <p>①通年して行えるプログラムの検討(複数)。ニーズ把握、講師選定。</p>	<p>〈下半期〉</p> <p>③複数講座お試し実施。振り返り。プログラム絞り込み。</p>	<p>〈下半期〉</p> <p>⑤講座実施。振り返り。ピアカン企画から講師等主催企画への移行を検討、実施。</p>

基本目標

1 みんなで支えあい・助けあえる地域づくり

(3) 小学校区ごとの強みを活かした活動の推進

アクションプラン	地域における互助・共助の新たな仕組みを構築します。
----------	---------------------------

事業内容	きずな事業
担当事業・係	地域福祉係
令和2年度の取り組み状況	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、今までの活動が困難な状況の中「会わない繋がりづくり」を掲げて支援にあたりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外出するきっかけづくり <p>外出する機会が減り、高齢者の筋力低下や認知症の進行等が懸念されるという声、また、サロン活動等が中止となり活力がなくなっているという声を受け、関西地図協会、ふるさとガイドの会との協働でGO近所MAPを作成しました。MAPを使い、会えなくても目的を共有できるしくみをつくり、一人でも外出する動機づけや機会の創出を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインの活用 <p>一つの拠点に多くの人が集まることを避けるため、オンラインを活用した「ハロウィン繋がりプロジェクト」「紙ヒコーキ」の2つの取り組みを行いました。</p> <p>ハロウィンでは、多世代交流、見守り、介護保険事業所との連携、保育園と地域の接点づくり、小学校区を跨いで交流する企画を地域住民と一緒に行いました。イベント前後には、小学校区での課題や小学校区を跨いだ中での地域課題等、今後の地域社会のあり方等を話し合う、座談会も行いました。</p> <p>全体として、コロナ禍でも様々な世代が地域活動に関心をもっていただけようになりました。また、介護保険事業所、企業等と連携できたことにより、活動の幅が広がり、地域に協力したいと思っている事業所と地域住民で協働した主体的な活動が広がりつつあります。</p>
計画期間前後のセー ルスポイント (市民の姿がどう変 わったか、自慢でき る点)	<p>5年間、取り組みを継続することで、市民との協働の機会が増え、より多くの活動の場に顔を出すことができるようになりました。</p> <p>また、多様なプログラムを試行錯誤し着手することで、従来の既存ネットワークだけでは出会うことができなかつた層との出会いや、小中学校との活動増など、顔の見える関係性を新たに構築できました。</p> <p>さらに、地域における課題を直接聞き、寄り添いながら活動を継続することを心がけることで、市民の活動意欲も促進されることを実感し、信頼関係を構築することの重要性を再認識しています。</p> <p>特に計画期間後半は、コロナ禍の制限はありながらも、住民自身が繋がることの大切さを再確認する機会が増え、会えない中ででも工夫した「繋がりづくり」の重要性に共感される方が多くなったとともに、きず</p>

	<p>なコーディネーターの活動が信頼されていることを感じました。</p> <p>地域カルテ等のデータ作成や活用のあり方については、まだ十分とはいえませんが、活動者を増やしていくための有効な方法を引き続き模索します。</p>
--	---

【5年間の計画】

平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
モデル地区の設定、地域カルテ・マップを作成				
地域課題の分析及び課題に対する有効な方法のプログラム化				→

基本目標

1 みんなで支えあい・助けあえる地域づくり

(4) ボランティアセンターの充実・強化

アクションプラン	ボランティアの活動人口を増やします。
----------	--------------------

事業内容	ボランティア事業
担当事業・係	地域福祉係
令和2年度の取り組み状況	<p>ボランティアセンターの充実・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアだよりの発行（5・9・11・2月に各840部） ・点訳奉仕員養成講座（9月28日～11月30日 全9回、受講者4名） ・朗読ボランティア養成講座（10月2日～11月6日 全7回、受講者9名。市民を講師に基礎知識の講義、朗読に関わるボランティア4団体を講師に実際の活動について等） ・図書修繕講座（9月12日～9月26日 全3回、受講者7名） ・Instagramによる広報も新たに取り入れ、ボランティアセンターの情報発信 ・第7回ながおかきょう福祉まつりの実施（新型コロナウイルス感染症の影響のためにオンライン開催とし、ボランティア団体の活動紹介動画を作成）
計画期間前後のセー ルスポイント （市民の姿がどう変 わったか、自慢でき る点）	<p>朗読ボランティア養成講座は計画通り3年に一度の開催ができました。また、各種の講座を通じ、受講者はボランティア団体への加入や認知症サポーター登録等につながることができ、活動人口が増えました。</p> <p>さらに、図書修繕講座の講座終了後には、継続して本に関わりたいとの声があり、図書修繕を学びながら修繕を担う団体（14名）が生まれました。</p> <p>ながおかきょう福祉まつりは、年々内容が充実し、それとともに参加者も増加傾向にありましたが、計画期間後半は新型コロナウイルス感染症の影響のために中止し、また、再開時にはオンライン開催としました。これにより活動者にとっては、活動の価値が動画として見える形になるとともに、ボランティア活動の啓発につながりました。また、ボランティア連絡会の新たな情報の発信方法として Instagram を取り入れ、活動人口を増やす試みをボランティア関係者と一緒に検討実施できるようになりました。</p>

【5年間の計画】

平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
ボランティア入門講座の内容の検討・実施	ボランティア入門講座の見直し・実施 朗読ボランティア養成講座の実施	活動人口を増やすための入門講座の実施	活動人口を増やすための入門講座の実施	活動人口を増やすための入門講座の評価・実施 朗読ボランティア養成講座の実施
ボランティア受入団体や受入施設との連携・強化	ボランティアの受入先を広く反映した「ふれあいパートナー」（ボランティア活動紹介パンフレット）の作成			ボランティア受入団体や受入施設との連携・強化の評価
広報（ホームページ、ボランティアだより）の見直し	広報（ホームページ、ボランティアだより）の立案	活動人口を増やすための広報の作成	活動人口を増やすための広報の見直し・実施	活動人口を増やすための広報の実施
「ながおかきょう福祉まつり」でのボランティア活動への理解を深める催しの実施				

基本目標

1 みんなで支えあい・助けあえる地域づくり

(5) 災害ボランティアセンターの充実

アクションプラン	住民と企画する災害ボランティアセンター設置に向けた活動を進めます。
----------	-----------------------------------

事業内容	災害ボランティア事業
担当事業・係	地域福祉係
令和2年度の取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、地域での研修会や訓練の開催が中止になりました。 ・地域でのサロン活動等が中止になる中、活動者の活動の機会を設けて、コロナ禍での少なくなった人とのつながりを持ち続けるために、「きずな事業」との協働で「会わない繋がりづくりプロジェクト」を実施しました。社会的にマスクの品薄が続き、特に社会的弱者の方がマスクの購入ができない状態が続いたため、広く市民に布マスクの寄付を募り、施設を利用するや高齢者や障がいの方々へ提供する活動「マスクチャレンジ」を呼びかけました。市内の地域活動者の多くが協力を申し出てくださり、いかなる状況であってもできることに取り組む力強さを感じることができ、アフターコロナでも継続して活動を実施されることを確信しました。 ・災害時に市民団体や企業、学校がそれぞれの得意なことで災害ボランティアセンターと協働で被災者支援にあたる事ができるように協力することを目的とし、3団体と災害時パートナーシップ協定を結ぶことができました（食物アレルギー児の暮らしを考える会長岡京、子育て支援ぼちぼちステーション長岡京、一般社団法人 FM おとくに）。
計画期間前後のセー ルスポイント (市民の姿がどう変 わったか、自慢でき る点)	<p>人材育成と災害時にも強いまちづくりの実現のため平成30年度よりフセマルまちプロジェクトを立ち上げ、住民が主体となり防災を切り口とした地域づくりに取り組んできました。この活動が素地となり住民主体のフセマルプラットホームというグループとなり現在も活動を続けています。</p> <p>また、災害ボランティアセンターの啓発を続けてきたことにより、計画期間後半に発生した新型コロナウイルス感染症の影響の長期化の中にあっても、防災意識を低下させることなく何ができるかを考えている市民・市民団体の意向を把握することができました。特に災害時パートナーシップ協定では、防災の活動を普段からしていないグループがそのために活動の幅を広げる機会ととらえていただけました。</p> <p>住民と企画する災害ボランティアセンターの設置については、コロナ禍により実施ができませんでしたが、第4次活動計画において早期に取り組む予定にしています。</p>

【5年間の計画】

平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
長岡京市版防災人(災害ボランティア等)を増やすためのプログラムの開発	プログラムの実施 関係機関・人材との連携体制(チームづくり)	プログラムの実施・拡大 関係機関・人材との連携体制(チームづくり)	→	住民と企画する災害ボランティアセンターの設置

基本目標

1 みんなで支えあい・助けあえる地域づくり

(6) 福祉教育の充実

アクションプラン	未来を担う人づくりを進めます。
----------	-----------------

事業内容	ながおかきょう福祉まつり 福祉教育プログラム
担当事業・係	地域福祉係
令和2年度の取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・第7回ながおかきょう福祉まつりは、新型コロナウイルス感染症の影響のため、初めてオンラインでの開催にしました。 ・赤い羽根プロジェクト福祉教育プログラム 市内小学校10校の児童に赤い羽根共同募金のしくみや使われ方を学んで、93個の手作り募金箱を作ってもらいました。 ・長岡第四中学校で行っている共同募金の助成金を受け築山に花を植える取り組みについては、中学生や教職員による共同募金の学習と地域とのつながりの実践として、育てた花を地域の福祉施設や共同募金の協力店、サロン活動をされている団体等に配布しました。
計画期間前後のセー ルスポイント (市民の姿がどう変 わったか、自慢でき る点)	<p>ながおかきょう福祉まつりは福祉を身近に感じられる企画で実施し、令和2年度のオンライン開催においてもボランティア団体の活動紹介動画に隠れた当会のロゴマーク「なーちゃん」を見つけることで景品がもらえる等工夫を凝らしました。景品交換には多くの子どもたちが訪れてくれ、活動団体への応援メッセージも得ることができました。</p> <p>共同募金では、そのしくみを伝え、小学生が募金箱をつくり町のお店に設置してもらい取り組みが、学校のカリキュラムの総合学習「赤い羽根教室」として位置づけられるようになりました。</p>

事業内容	子育て支援事業
担当事業・係	管理事業
令和2年度の取り組み状況	<p>コロナ禍できりしま苑の臨時休館や貸し部屋の利用人数制限があったため、継続して実施していた多世代交流イベントが実施できませんでした。</p>
計画期間前後のセー ルスポイント (市民の姿がどう変 わったか、自慢でき る点)	<p>地域福祉センター機能を活かし、高齢者と子どもやその親の交流ができる場づくりを行うことで、お互いに声をかけあう姿が増えてきました。</p> <p>きりしま苑が子育て支援事業を実施していることが周知されたことで、地域住民や学校との連携が進みました。</p>

【5年間の計画】

平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
福祉教育プログラム（モデル）を作成するプロジェクトチームの立ち上げ	福祉教育プログラム（モデル）の作成、取り組んでもらえる団体の模索	福祉教育プログラム（モデル）の実施、プロジェクトチーム等による評価	福祉教育プログラムの見直し 福祉教育プログラムの実施・拡大	福祉教育プログラム実施団体合同での発表交流会の開催
「福祉まつり」での福祉の理解を深める催しの実施				→

基本目標

2 一人ひとりが自分らしく安心して暮らせる仕組みづくり

(1) 一人ひとりの生活のしづらさを地域でサポートできる多職種連携

アクションプラン	日々の支援から地域でサポートできる仕組みづくりを進めます。
----------	-------------------------------

事業内容	<p>第1層協議体・第2層協議体（生活支援コーディネーター）</p> <p>暮らしヘルパー養成講座（旧 暮らしサポーター）</p> <p>包括的・継続的ケアマネジメント支援事業</p> <p>地域包括支援センター地域ケア会議</p>
担当事業・係	地域包括支援センター（基幹強化担当・校区担当）
令和2年度の取り組み状況	<p>（第1層協議体・第2層協議体・生活支援コーディネーター）</p> <p>第1層協議体では、総合事業の展開を検討する2つのプロジェクトを推進し、住民同士の支え合い活動と短期集中型の介護予防の取り組みについて議論を重ねました。第2層協議体では小地域でのゴミ出しの課題を地域での支え合い活動とつなげるきっかけづくりを、自治会等の地縁団体とともに検討しました。</p> <p>（地域ケア会議）</p> <p>個別支援ケースへの対応事例から「現状では解決しづらい課題」や「インフォーマルサービスや自主活動」等を抽出し地域課題や地域資源の把握を進めています。</p>
計画期間前後のセールのポイント （市民の姿がどう変わったか、自慢できる点）	<p>（第1層協議体・第2層協議体・生活支援コーディネーター）</p> <p>協議体で話し合いの場を積み重ねることで、地域住民や地縁団体同士のネットワークがひろがりました。生活支援コーディネーターの働きかけによって、自身の住む地域の課題を共有し、今後の地域の姿について考える機会が増えました。</p> <p>（地域ケア会議）</p> <p>生活支援コーディネーターや市各関係部署から参加があり、地域課題等を抽出しました。高齢者の「自宅で活動したい」との声が自宅開放型サロンの開催に繋がった例や、整形外科的疾患の課題に特化した講座や難聴者相談会が新たに開催されるなど、困りごと解決や介護予防の取り組みの機会が増えました。</p> <p>また、いわゆる 8050 問題にあたる世帯や若年性認知症の方の対応等の課題を包括ケア会議に発信し、今後も関係者が継続的に考えていく必要があるとの意識付けができました。</p>

【5年間の計画】

平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
個別ケースからのニーズ把握 協議体の体制整備 サービスの担い手に関する既存の地域資源(市民活動団体、事業所、ボランティア・NPO 団体等)の整理・確認	地域課題の抽出 地域で必要なサービスの検討	整理・確認から把握できるサービスの担い手の活用	見直し	評価

基本目標

2 一人ひとりが自分らしく安心して暮らせる仕組みづくり

(1) 一人ひとりの生活のしづらさを地域でサポートできる多職種連携

アクションプラン	障がいのある人がその人らしく生活できるよう支援します。
----------	-----------------------------

事業内容	障がい者相談支援の実施（委託相談、計画相談支援、児童相談支援）
担当事業・係	障がい者生活支援事業
令和2年度の取り組み状況	<p>計画相談支援及び児童相談支援の取り組みとしては、長岡京市の障がいのある人の「サービス等利用計画作成や生活に関する相談」を相談支援専門員が担当しています。</p> <p>当事業所では、年度末で152人の相談を担当し、前年度比2人の増加となりました。定期的なモニタリングや支援調整等については、新型コロナウイルス感染症の影響を考え、ご本人やご家族、関係機関と意向を確認し、電話での対応が中心になりました。</p> <p>長岡京市から相談事業を受託しているため、転入や支援学校卒業後の進路、中途障がいなどで新たに障がい福祉サービスを受けたい方のケースをお受けすることもあり、多様なニーズに対応しています。</p>
計画期間前後のセー ルスポイント (市民の姿がどう変 わったか、自慢でき る点)	<p>計画期間後半はコロナ禍により、障がいのある方々の余暇活動が制限されたり、就労時間が短縮されたり等、今までと異なった生活状況になり、生活不安や精神的に不安定になる課題が発生しましたが、計画相談、委託相談に関わらず対応しています。</p> <p>相談対応にあたっては、ご本人やご家族の意向に寄り添い、一緒に考え、課題解決することを目指しています。</p> <p>専門職として知識を積み上げ、障がいのある人やそのご家族が楽しく安心して生活が送れるような支援に努めています。</p>

【5年間の計画】

平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
相談支援の充実 のための市社協 職員のスキルア ップ				→
評価チェックシ ートを使った「サ ービス等利用計 画」の振り返りと 改善				→

基本目標

2 一人ひとりが自分らしく安心して暮らせる仕組みづくり

(1) 一人ひとりの生活のしづらさを地域でサポートできる多職種連携

アクションプラン	在宅生活を安心して継続できる個別支援の充実を図ります。
----------	-----------------------------

事業内容	デイサービス事業
担当事業・係	デイサービス事業
令和2年度の取り組み状況	<p>1. 2ヶ月に1回、職員全体への研修を継続しています。利用される方の不安を減らし、安心して普段の生活を送れるよう、新型コロナウイルス感染症への対策についての研修を重点的に取り組みました。個別支援を行うため、全職種が集まり、支援の内容を検討する会議を定期的に業務の中に取り入れました。</p> <p>2. 障がいや病気などの様々な原因により自宅に閉じこもりがちになられた方にも、地域の中で自分が出る、誰もが自分を活かせる場所を増やせるよう、デイサービスでのボランティア活動の場を提供しました。障がいや病気をお持ちの方も安心して活動できる配慮を行い、一人でも多くの方が安心して活動できる内容を一緒に考え実施しました。</p> <p>3. 地域支援プログラムの実施継続（毎月1回※緊急事態宣言中は中止） (ア) 感染対策を施しながら、一般利用者「きりしま苑一般利用者向け体操教室」を実施しました。 (イ) 地域包括支援センター、各自治会や各団体との協働により、自治会でのサロン活動内で月1回、介護予防プログラムの提供をしました。</p>
計画期間前後のセールスポイント （市民の姿がどう変わったか、自慢できる点）	<p>令和2年度はコロナ禍の状況ではありましたが「デイサービスで関わる方たちが、安心していつも通りの生活を行えるように」を念頭に置いた取り組みを行いました。「きりしま苑に来ている時は安心できる」という声を色々な場面で聞くことが増えました。</p> <p>感染症への不安をお持ちの方も介護サービスが途切れることなく、普段通りの生活が安心して行えました。家族の方から「新型コロナウイルス感染症の対応がある中、デイサービスを変わず続けてもらえ、家族全員が助かっています」といったお声をたくさんいただきました。</p> <p>障がいや病気により、自宅などに閉じこもりがちになられた方にも活動できる場所が地域の中で増え、自分を活かせる場所やきっかけが出来ました。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で開催される機会が減りましたが、地域支援プログラムは今年度も好評で、リモートでも実施して欲しいといっ</p>

	<p>たご意見をいただき、参加者にとっては地域の中でなくてはならないものに変化していました。</p> <p>5年間の取組前と比較すると、施設外に出向く機会が増え、地域の方との交流の機会が増えました。デイサービスで行っている体操や行事・レクリエーションを地域の方たちと一緒にやる事で、健康寿命の延伸に寄与するだけでなく、利用者と地域の人、職員と地域の人といった新しいつながりが出来ました。きりしま苑を利用されている方、認知症や障がいがある方も、社会に参加できる場所が増え、生きがいや居場所作りにもつながりました。</p> <p>また、デイサービスってどんな所、利用している人はどんな人なのか、他人事ではなく、自分にも関係すること、そういった理解をしていただける地域の方が増えました。</p> <p>職員だけが行う支援にも限界があり、地域の人達と一緒にやって行うことで、より一層、利用者が在宅生活を安心して継続できると考え年々、地域活動への取り組みを増やしていくことができました。</p>
--	--

【5年間の計画】

平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
認知症ケア、機能訓練等の研修の受講、事業部内で申送り勉強会の実施	1. 研修を受講した職員による、それぞれのテーマで定期的な勉強会の開催	(研修+個別支援) 介護者の立場に立った介護者教室及び介護技術教室の開催	(研修+個別支援) 介護者教室及び介護技術教室の見直し・検討、実施	(研修+個別+地域支援) デイサービス事業の安定した事業運営の元、地域支援事業視点からの事業実施
利用者本人の立場に立った個別支援検討会議の定期的な実施	2. 利用者本人の立場に立った個別支援を通じた、事業内容の検討			
地域支援事業に向けたプログラムの検討・立案	3. 関係機関・団体との協議、地域支援事業プログラムを実施する機会の創出	地域支援関係機関・団体との地域支援プログラムに関する検討、地域支援プログラムの見直し・実施	デイサービス主体で行える地域支援に関する検討・立案	

基本目標

2 一人ひとりが自分らしく安心して暮らせる仕組みづくり

(1) 一人ひとりの生活のしづらさを地域でサポートできる多職種連携

アクションプラン	介護保険サービスを適切に利用できるようサポートします。
----------	-----------------------------

事業内容	居宅介護支援事業
担当事業・係	居宅介護支援事業
令和2年度の取り組み状況	<p>利用者の自立した生活が少しでも長く継続して送れるよう、利用者の意向を聞き取り、ニーズに沿った居宅サービスの計画書を作成しました。</p> <p>また、職員の資質向上のため、次の研修を受けました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府認定調査初任者研修 e-ラーニング ・ICT化で介護、福祉はどう変わる？ <p>講師：社会福祉法人善光会 サンタフェ総合研究所 所長 松村昌也氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域共生社会の構築とケアマネジャーの実践
計画期間前後のセールスポイント (市民の姿がどう変わったか、自慢できる点)	<p>一人ひとりの異なる希望や思いに応えるとともに、身体状況や住環境などそれぞれの抱える生活のしづらさを改善できるよう、サービス事業所とチームとして支援しました。利用者が一人であるいは家族だけで問題を抱えることなく、周囲の人々とのつながりを保ち、少しでも長く在宅生活を送ることができるよう、一緒に考えています。</p> <p>一つずつ、課題や問題が解決できるように支援を行っています。</p> <p>計画期間後半は新型コロナウイルス感染症の影響で、今までなら病院や施設に繋がるケースが在宅生活を選ばれた事をきっかけに、フォーマル・インフォーマルに限る事無く関係機関との連携を一層進める事が出来ました。生活を支える中心にケアマネジャーがいるという自覚を持ち、今後もしっかりと利用者、家族に寄り添った支援を行っていききたいと思います。</p> <p>また、対応が困難な事態が生じたときも、ケアマネジャーが一人で抱え込まずに色々な提案をしあえるよう、事業所内での連携をスムーズに行なうことができました。</p> <p>家族からの相談も年々増えている状況で、家族支援にも力を入れてきたことで家族の不安の解消に繋がっていると感じています。</p>

【5年間の計画】

平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
利用者が自立した生活を送るための関係機関とのチームケア体制づくり				→

基本目標

- 2 一人ひとりが自分らしく安心して暮らせる仕組みづくり
 (2) いつまでも地域とのつながりが実感できる生活支援体制づくり

アクションプラン	住み慣れた地域での暮らしを支援します。
----------	---------------------

事業内容	移動支援従事者養成研修
担当事業・係	ホームヘルプ事業
令和2年度の取り組み状況	平成28年度から引き続き、5年目の長岡京市移動支援従事者養成研修を1回実施し、7名が課程を修了しました。 令和3年度も引き続き開催に向けて準備をすすめています。
計画期間前後のセー ルスポイント (市民の姿がどう 変わったか、自慢 できる点)	この研修を実施することが、法人のみならず外部関係機関にも定着しており、研修の認知度や期待度も高まっていると感じています。研修修了後に、長岡京市内等で移動支援従事者（ガイドヘルパー）として活動を始める人もいて、介護人材の確保にもなっています。これは、福祉人材を増やし、地域で暮らす障がい者や高齢者を支えることにつながっています。

【5年間の計画】

平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
介護職員の初任 研修の実施	-（実施予定なし）	-（実施予定なし）	-（実施予定なし）	-（実施予定なし）
移動支援ヘルパーの養成				▶

基本目標

- 2 一人ひとりが自分らしく安心して暮らせる仕組みづくり
 (2) いつまでも地域とのつながりが実感できる生活支援体制づくり

アクションプラン	貸付事業を切り口とした個別支援の展開を推進します。
----------	---------------------------

事業内容	貸付事業
担当事業・係	地域福祉係
令和2年度の取り組み状況	<p>次の4つの貸し付けを行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活福祉資金（通年） ・くらしの資金（5月・7月・12月・2月） ・小口資金（通年） ・新型コロナウイルス感染症による特例貸付 <p>相談件数 2, 103件 申請件数 緊急小口資金 434件 総合支援資金 新規 323件 延長 169件、再貸付 154件</p> <p>開始当初は40・50歳代からの相談が多かったですが、8月頃から若い世代や母子世帯からの相談も増え始めました。</p>
計画期間前後のセー ルスポイント （市民の姿がどう変 わったか、自慢でき る点）	<p>計画期間後半は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け減収や失業となった、生活困窮者への緊急小口資金等による特例貸付の相談件数、申請件数が大きく増加しました。これまで以上に福祉なんでも相談室との連携を図り、貸付を通じた個別支援を行いました。特例貸し付けにおいては相談件数が多く、個別に丁寧な相談業務が出来なかった事が課題でした。今後は、償還も含め、どの様に支援をするのか府社協等関係機関と検討が必要です。</p> <p>また、この5年間でフードバンク長岡京等との連携が強化されたことにより、金銭面だけではなく食糧を提供する機会も大きく増え、支援方法を充実させることができました。</p>

【5年間の計画】

平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
相談窓口としての貸付事業の実施				→
市社協生活福祉資金調査委員会における住民の生活課題に関する情報共有				→

基本目標

- 2 一人ひとりが自分らしく安心して暮らせる仕組みづくり
 (2) いつまでも地域とのつながりが実感できる生活支援体制づくり

アクションプラン	介護に関わる方たちのつながりを構築します。
----------	-----------------------

事業内容	居宅介護支援事業
担当事業・係	居宅介護支援事業
令和2年度の取り組み状況	<p>一人の利用者に対してチームで支えていくために、関係者との連携を密にするよう常に意識して取り組みました。</p> <p>きりしま苑一般利用者・市民の方を対象に、敬老行事のイベントに併せて、「知って納得介護保険～施設編～」についての講座の開催を行いました。介護保険制度の内容と併せて、令和元年度に実施したアンケートで関心の高かった「高齢者施設の種類の利用方法について」の内容としました。施設の種類の多さや、施設ごとの金額の比較などが出来、参考になったという意見が多い中、もっと具体的な情報が欲しいとの積極的なご意見も頂き、今後講座を開催する上での参考になりました。</p>
計画期間前後のセールスポイント (市民の姿がどう変わったか、自慢できる点)	<p>現在は介護の必要が無く元気な方にとっては、介護状態になった時にどこに相談したらよいのか、どういったサービスが受けられるのか等、言葉は知っているが、介護保険の制度そのものをご存じない方がまだまだ沢山おられるように感じます。介護が必要になっても慌てなくてすむよう、また、住み慣れた地域で少しでも長く生活できるよう、日頃から介護保険の利用の仕方など知っていただく機会や、介護について考える機会を引き続き設けたいと考えます。</p>

【5年間の計画】

平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
介護保険サービスに関する相談会や説明会の実施内容の検討	<p>老人会等へのアウトリーチによる相談会の開催</p> <p>介護保険サービスを利用する前の方に対する説明会の開催</p>	「介護の集い」の開催	見直し	評価

基本目標

2 一人ひとりが自分らしく安心して暮らせる仕組みづくり

(3) 一人ひとりの権利を守る活動の充実

アクションプラン	高齢者が安心して生活できる地域づくりを進めます。
----------	--------------------------

事業内容	介護者支援 権利擁護業務
担当事業・係	東地域包括支援センター（基幹強化担当・校区担当）
令和2年度の取り組み状況	<p>（介護者支援）</p> <p>男性介護者の悩みや気持ちを共有する場として、男性介護者サロンを5回開催しました。</p> <p>（権利擁護業務）</p> <p>市内の地域包括支援センターの横つながりである社会福祉士部会と行政とで、虐待対応マニュアル及びフローチャートや帳票の見直しを行いました。また、成年後見制度の理解と利用の促進を目的に、司法書士と連携し市民向けの成年後見制度活用講座を実施しました。</p> <p>（無料法律相談の開催）</p> <p>弁護士による無料法律相談（月1回程度、電話相談）の開催に協力しています。</p> <p>（成年後見制度利用促進にかかる合同勉強会）</p> <p>専門職（弁護士・司法書士・社会福祉士）と市内ケアマネジャー、障がい者関係相談機関との事例検討会を、行政と協働して開催しました。</p>
計画期間前後のセールスポイント （市民の姿がどう変わったか、自慢できる点）	<p>（介護者支援）</p> <p>男性に限定した介護者サロンを開催することで、ここでしか話せないこともあると一定の参加者もあり、居場所のひとつとして定着しつつあります。自身のための参加動機から、同じ悩みを持つ方を支えることへと目的が変化した参加者の姿も見られました。</p> <p>（権利擁護業務）</p> <p>長岡京市の高齢者虐待対応を市民にも公開することで、高齢者虐待の予防の意識づけができました。また、成年後見制度の理解促進では、正しい情報を得る機会があり、専門機関等へつながることのできる市民が増えました。</p> <p>（無料法律相談の開催）</p> <p>成年後見制度の申立て、遺言書作成、遺産相続など身近な場所で相談ができる機会が増えました。</p> <p>（成年後見制度利用促進にかかる合同勉強会）</p> <p>福祉の関係機関と法律の専門職との連携のイメージをもつことができました。</p>

【5年間の計画】

平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
相談窓口の周知			見直し	評価
個別相談の充実 のための市社協 職員のスキルア ップ	→			

基本目標

2 一人ひとりが自分らしく安心して暮らせる仕組みづくり

(3) 一人ひとりの権利を守る活動の充実

アクションプラン	市社協が、判断力があいまいで、日常生活に困難を感じる人の適切な伴走者となります。
----------	--

事業内容	福祉サービス利用援助事業
担当事業・係	地域福祉係
令和2年度の取り組み状況	利用契約者は36名（令和3年3月末時点）、のべ支援件数は1,521件でした。支援を受けたいという量的ニーズが増加する中、量への対応だけでなく個別ニーズに沿った支援の質的スキルを上げることや丁寧な対応など、質の向上を意識的に取り組んでいます。
計画期間前後のセールスポイント (市民の姿がどう変わったか、自慢できる点)	<p>専門員及び生活支援員による支援体制を人員面で維持しつつ、質を向上させるよう研修等で研鑽を積みました。ニーズを聞き取る際には、丁寧に聞き取ることを意識し、その人らしく生活できる支援を心がけています。また、支援チームの一員として関係機関と連携し、福祉サービス利用援助事業の利用者の自己決定に基づいた生活を支えています。</p> <p>権利擁護に関する広報啓発用パンフレット作成については実施できませんでしたが、本会情報誌と一くで年1回の定期的な掲載やリニューアルした本会ホームページでの掲載、講座等での啓発を行いました。今後、パンフレットもしくはポスター等の印刷物に限らず、時代に対応したもので効果的な手段を検討したいと考えます。</p>

【5年間の計画】

平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
福祉サービス利用援助事業の実施				▶
生活支援員の研修交流会の計画 (社協内部・乙訓圏域)	生活支援員の研修交流会の実施 (社協内部・乙訓圏域)	生活支援員の研修交流会の計画 (社協内部・乙訓圏域)	生活支援員の研修交流会の実施 (社協内部・乙訓圏域)	生活支援員の研修交流会の計画 (社協内部・乙訓圏域)
生活支援員同士の同行研修の計画・実施				▶
権利擁護に関する広報啓発用パンフレットの内容の検討	パンフレットの作成準備	パンフレットの作成・全戸配布	パンフレットに基づく啓発研修の内容の検討	パンフレットに基づく啓発研修の実施

基本目標

3 福祉のまちづくりを支える基盤づくり

(1) 情報収集・発信、交換の促進

アクションプラン	市民の活動に結びつく情報発信を行います。
----------	----------------------

事業内容	情報誌「とーく」の発行、ホームページへの情報掲載
担当事業・係	広報企画推進会議
令和2年度の取り組み状況	<p>社協情報誌「とーく」（発行年4回）が100号を迎えました。</p> <p>社協のさまざまな取り組みを始め、各種講座やイベントの案内、地域で活躍する人々の紹介を、写真やイラストを活用してより見やすく、わかりやすい紙面になるよう意見を出し合い作成しています。</p> <p>また、ホームページを令和2年3月にリニューアルし、以降、タイムリーな情報発信に努めるとともに、コロナ禍での自宅生活でも介護予防やリフレッシュできるような動画を配信するなど新たな情報発信も行いました。</p>
計画期間前後のセー ルスポイント (市民の姿がどう変 わったか、自慢でき る点)	<p>「とーく」を見た市民からの講座の申し込みや問い合わせは多く、SNSによる情報発信が主流となりつつある昨今においても紙面による情報提供ツールとして重要な役割を担っていると感じます。</p> <p>一方のホームページでは、動画配信やオンラインイベントなど新たな方法での発信ができるためアクセス数も増えており、今後さらに活用していきたいと考えています。</p>

事業内容	老人福祉活動等支援事業・子育て支援事業
担当事業・係	管理事業
令和2年度の取り組み状況	<p>地域福祉センターきりしま苑として、Facebookを活用して講座開催の案内や臨時休館のお知らせなどのタイムリーな情報の発信をしています。</p> <p>特に令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により外出が制限された中において、情報発信できるツールとして活用できました。</p>
計画期間前後のセー ルスポイント (市民の姿がどう変 わったか、自慢でき る点)	<p>Facebookを活用することで、より幅広く情報を発信することができており、Facebookを見て講座等の開催を知り申し込まれる方も増えてきました。</p> <p>特に若年層においてはFacebookを通してきりしま苑を知って下さった方もあり、より幅広い世代にアプローチできる方法であると実感しています。</p>

【5年間の計画】

平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
市社協の広報企画推進プロジェクトチームにおける情報誌「とーく」の編集			→	充実
市社協のホームページの運営のチームづくり	ホームページ運営チームによるホームページの提案	新たなホームページの運営	→	充実

基本目標

3 福祉のまちづくりを支える基盤づくり

(1) 情報収集・発信、交換の促進

アクションプラン	認知症になっても安心して過ごせる地域づくりを進めます。
----------	-----------------------------

事業内容	認知症初期集中支援チーム 個別支援 認知症サポーター養成講座 認知症啓発 おでかけあんしん見守り事業への協力
担当事業・係	地域包括支援センター（基幹強化担当・校区担当）
令和2年度の取り組み状況	<p>（初期集中支援チーム）</p> <p>17件（新規7件）のケースに対応し、専門医受診や家族支援など、目標に沿った支援を行いました。</p> <p>また、認知症の方本人と家族の意向に違いがあるケースに対しては、それぞれが気持ちを整理できるような関わりを持つなど、相談者のペースに合わせた対応をしました。</p> <p>（認知症サポーター養成講座）</p> <p>見守りを中心的役割とする認知症サポーターから、もっとなにかできることはないか考える動きがあり、話し合いの場として「オレンジミーティング」を実施しました。</p> <p>（認知症啓発）</p> <p>市民に認知症を身近に感じてもらう取り組みとして、市立図書館と連携し、アルツハイマーデーに合わせて認知症に関連する図書のコーナーを設けました。</p>
計画期間前後のセ ールスポイント （市民の姿がどう 変わったか、自慢 できる点）	<p>（初期集中支援チーム）</p> <p>地域包括支援センターや医療機関との適切な連携により、関係機関を中心に認知症初期集中支援チームの周知と役割の理解が進みました。</p> <p>（認知症サポーター養成講座）</p> <p>従来のサポーター養成からフォローアップや新たな取り組みのきっかけづくりを通じて、認知症についての知識を深めるだけでなく、自分達は何ができるのかを考えることができました。</p> <p>（認知症啓発）</p> <p>お祭り、スポーツなどの様々な取り組みを通じて、普段認知症が身近でない世代の住民も認知症について考えるきっかけを得ることができました。</p>

【5年間の計画】

平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
認知症に関する啓発媒体の作成 講座	啓発媒体の活用			
イベント等での認知症に関する知識の普及	講座、イベント等知識の普及の場の拡大	→	見直し	評価
地域住民の声の吸い上げ		→		

基本目標

3 福祉のまちづくりを支える基盤づくり

(2) 会費・活動財源の確保

アクションプラン	市社協事業の目的と役割に理解と共感を得るための取り組みを進め、会員の増加を図ります。
----------	--

事業内容	会員募集
担当事業・係	地域福祉係・総務係
令和2年度の取り組み状況	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けながらも、自治会への協力依頼等を検討しながら、会員募集を行ないました。</p> <p>例年、理事と一緒に廻る、法人賛助会員・特別会員の募集活動については、振り込みでの協力依頼をしながら、必要に応じて訪問しました。医師会、歯科医師会、薬剤師会への継続的な呼びかけも行っているとともに、新たな法人会員を増やす取り組みを理事及び評議員とともに進めています。</p> <p>全体的には、コロナ禍で直接、会員会費をお願いする機会が減り、集まった額も減少しています。</p>
計画期間前後のセールスポイント (市民の姿がどう変わったか、自慢できる点)	<p>社協のことを広く知ってもらうために、一般会員の章をオリジナルキャラクター(きずなくん)入りのものに変えて、親しみを持ってもらえるよう周知啓発に努めました。一般会員の章のデザインにあたっては、社協役員や会員の協力を得て制作、決定をしました。会員募集に関わる活動を市民とともにできたことは、活動を展開していくにあたって大きな一歩であると感じています。</p>

【5年間の計画】

平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
会員制度について市民理解を進めるための市社協役員・職員の地域活動への参加	→	市民に必要性が伝わる会員会費の使途の検討	→	市民に必要性が伝わる会員会費の使途の提案

基本目標

3 福祉のまちづくりを支える基盤づくり

(3) 共同募金を財源とした地域福祉の推進

アクションプラン	地域での共同募金活動の充実を図ります。
----------	---------------------

事業内容	共同募金配分金事業
担当事業・係	共同募金事業・地域福祉係
令和2年度の取り組み状況	<p>共同募金委員会充実のための取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会、審査委員会の開催 ・自治会等の協力を得ての募金活動 ・市民児協の協力を得て募金啓発活動と募金箱の設置及び回収 ・くらしの応援隊ボランティアの会による街頭募金活動 ・小学校や中学校での福祉教育として「赤い羽根教室」の実施 ・市内小学校10校での福祉教育として募金箱づくりの実施 ・町に手づくり募金箱の広報誌5号を発行 ・通年募金箱設置店の拡大（計10ヶ所） ・歳末たすけあい募金を財源とした助成金の公募を実施 ・募金百貨店プロジェクト新規参加店舗1店舗（計13店舗） ・テーマ型募金の拡大（計4団体）
計画期間前後のセールスポイント （市民の姿がどう変わったか、自慢できる点）	<p>小学校の取り組みとして、総合的学習の時間において「赤い羽根教室」を実施し、共同募金のしくみを学び募金箱の作成をしています。これまでは共同募金担当者が「赤い羽根教室」の講師を行っていましたが、担当の先生が伝える役割を果たしてくださり、主体的な取り組みとなっている学校もあります。共同募金への理解者が増えた成果と考えます。</p> <p>また令和2年度に設けた「新型コロナウイルス感染症に負けない地域づくり事業助成」枠では、活動者が直接審査委員にプレゼンテーションを行い、事業の説明を行う方式を初めて採用しました。活動者の想いを直接聞ける場として、審査委員と市民活動者を繋ぐしくみを共同募金委員会として実現することができました。</p> <p>広報については、社協ホームページのリニューアルに伴い掲載記事を一新しています。紙媒体は手作り募金箱や募金百貨店を周知する内容で作成できました。</p> <p>赤い羽根サポーターは、新型コロナウイルス感染症の影響を受けるまでは増加傾向で活動の場面も増えつつありましたが、計画期間後半には人数は現状維持、活動回数は縮小となりました。</p>

【5年間の計画】

平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
団体（老人会等）との協働による募金活動の具体的な計画・実施	団体（福祉施設等）との協働による募金活動の具体的な計画・実施	団体（福祉施設等）との協働による募金活動の実施		→
小・中学校への赤い羽根プログラムの提案・計画	小・中学校での赤い羽根プログラムモデル実施	小・中学校での赤い羽根プログラム実施	小・中学校での赤い羽根プログラム実施・拡大	→
共同募金に関する広報誌計画	広報誌発行（年 1 回）	広報誌発行（年 2 回）	共同募金に関するホームページ立案	ホームページ計画・作成
共同募金に関する地域説明会・勉強会の計画	地域説明会・勉強会の開催			→
赤い羽根サポーター研修の計画	赤い羽根サポーター研修の実施	赤い羽根サポーター説明会の計画	赤い羽根サポーター説明会の開催	赤い羽根サポーターの充実
テーマ型募金の拡大				→